海外だより

☆リベロインターナショナル No.2 C I R A 日本国際通信
部発行の英文誌だから海外だよりに入らないかも知れないが、英語圏向けでアジア諸国のリベラール運動を紹介するとしてから検討する。A われわれの位置Vの一文では「過去を開いて未来を守る」のが役割りだとしている。これには賛成だ。「過去を開くとは過去を信頼して未来を創造することで：未来を守るとは資本主義の見方だけでアジアの前途を見ろという神話を打破する意味」だとも答えている。「日本に於ける連合組織」の文は68年の状況描写でJ A F について山口英さんと思われ人の意見が訳され、ベ平連、全共闘に多くの文章がさかれています。知りたいのは単なる内幕物ではなく、またベ平連や全共闘の自発的な組織づくりをアナキズムだと評価することでもない筈である。ロベスピエールは自分のやり方に反対する民衆組織はすべてアナリストで片づけていた。(参照平等のための反逆—ブナロッティ)「アナキストがバスに乗遅れたとか(P8)支持者を拡げるのに失敗したとか、本当に運動と呼べるものは大体何も達成しなかったとか：」それは自己批判の意味はあっても：それに比べベ平連や全共闘はこうこうだった式

に評価できるのかどうかそこが私の疑問視するところである。恐らくこの文の筆者は善意であろうが利用した資料がよくなくて(アプターとジョルのアナキズムトウデイの中の「日本に於けるアナキズム」)こんな事になったのだろう。むしろ勇気を出して(英文を作るのが大変なのは理解しているつもり)偏見にしろ極論にしろ書きつけて下さる方を歓迎するが、余りにも自己の傷みを感じない書き方は学者先生の余技に委せ、もっと過去を信頼して共に未来を切り開きましょう。(H)

野火

吉岡さんより

私がアナキズムとは何かと問われた場合、私はそれは倫理学であると答えます。人間が権力に反逆して自由を求めて戦い、かつまた相互扶助によって生活するというきわめて素朴な、しかし重要ないわば、思想以前の人間の感情であると思います。そしてアナキズムがこの倫理学を捨て単なる機能主義へと陥ったならば、八太舟三が言うように、マルクス主義の権力万能思想に吸収されるか、またはテロリズムへと走るのではないでしょう。また、権力を個人に帰するか、または社会の相互規制的な関係に帰するかによってまたいろいろと変わってくる

ものと思います。だけどこれは今後さらに討論などを通じて明確化していかなければならないと思います(私は後者によって生ずると思います)。

それから政治に関する事でですけど、私は政治否定だと思いません。否定とは拒否よりもさらに進んで政治そのものを破壊する意味に解しています。

最後に、今年国際婦人年とかで、婦人解放を叫んで国際会議が開かれていますね。私はこれらに対して私はどちらかと言えば否定的です。なぜかと言えば、大杉栄が「新しい女」で言った事から少しも進歩していないように思います。これは独断かも知れませんが……私はこれらの「国家」的会議よりもフランスで進展している娼婦達の「反国家」的なストライキに注目しています。これは偽善的な婦人解放ないし資本主義国家の上に乗った会議よりもよほど真実味があると思います。さすがはサドやフリーエなどを生んだ民衆だと羨望し、また自覚とか、自由の感覚などに於いて違うのかなと思っております。

ぐずら・だより

エンリコ・ビルでエスペラントの勉強会をやっているの知ってる？ 毎週水曜日の七時から。そのころ電話すれば、途中まで迎えに来てくれるヨ。僕もエンリコ・エス

の仲間の一人。

今日は、エスペラントのことを少し。エスは、違う母国語を話している人どうしが、お互いを理解するためにお互いの母国語を押しつけるかわりに、第三の言葉を使う、というもの。だから、エスペラントは誰でもはじめは非エスペラントで、その次は新米、そしてやっと本物になってきた人ばかり。誰もが使えるためには、誰にとっても習いやすいことがどうしても必要。たしかに習いやすくできている。二ヶ月もやれば手紙が書ける。読むだけなら、二週間もあればいいと思う。けど言葉だから奥は深いから、その先何年かけてくれてもいい。できてしまっていた、というしだい。

エスペラントがやさしいってことで一番、恩恵を受けられるのは、語学なんぞにたっぷり時間をかける暇のない労働者だと思う。「一犯一語」というので入獄するまで暇はないと言わずにかじってみてごらん。

運動のためにエスは非常に有効。運動する一人一人が世界中の人とつながれる耳と目と口を持つことは、すごくいいこと。あなたの目で世界にじかに触れてほしい。

ほんとにエスなんて使えるのかしら、と知っている人について、アナキストの作っている隔月刊の雑誌を紹介しよう。「自由人の絆」という名前です A T (世界無民族

協会)の自由人部分が作っている。A4版10頁で、論文が3頁、世界情報が1頁、雑誌紹介が3頁、読者からの声が半頁他に雑報など、というもの。世界中の情報載っている。(残念ながらヨーロッパに傾いてはいるが)20号には「リベロ・インター」の紹介、19号には「自由連合(エス版)」の紹介がある。

申し込みは日本で代理人をしてもらっている鶴木さんの方へ。代金は確定してないが一部一〇〇円ぐらい。(今スエーデンと連絡中。わかりしだいお知らせします。)

「自由連合(エス版)」は手塚さんが編集しているもの。より多くの人が原稿、編集に手をかして、もりたてたいもの、と思う。

「自由人の絆」：鶴木敬憲：福岡県京都郡荊田町南原。
「自由連合」：手塚登士雄：練馬区東大泉三七六。
一部送料とも五〇円ぐらゐ。

おまけに、僕の作っている個人誌「ぐずら・だより」のエス版もあります。はがきくれれば、よろこんですぐ送ります。もちろんタダです。申し込みは、ひろせしんじ：文京都春日一―二一七―五〇六

自分の眼で確かめてみることをすすめます。僕の所かエ

ンリコ・ビルに連絡すれば手びきします。

新明さんより

(一部判読した所もあります。)

連日TVで流されるあの事件後、家をあげればソコソどこを行こうにも犬がうるちよろしている状況です。フレームアップには充分個々の注意を払いましょう。アナキズムは決して犬力によってなやまされるのではありませんし、正に人間が生きていることによって人間と人間どうしの対話から真に友情と連帯、友愛が生まれ、そこには生命の尊さが生まれるものでなくてはなりません。若者のどうしようもない気持もわからんことはありませんが、私だってここまで生きつづけてきました。振り返ればどうしようもない怒り、悲しみ、いてもたってもいられないような時もあります。一発やったるか、という気にもなりかねない、どうしようもない、やりきれない時もあります。……でも今なさんと思うものは、今私達はコツコツとはがゆく思うとも先人の貴重な遺産、このアナキズムの芽を枯れさせては絶対にならないのだと思います。コツコツとピラ一枚であっても本の回し読みであろうとも彼か彼女がどこに飛んで行こうと自由にアナキズムの生活者のごとくありとあらゆる地点で自由にアナキズムの芽を、のばさなくてはならない。

大門一樹「欺瞞と暴力の大企業」の犯罪化

現代の眼の八月号に、大門君は題名の一文を寄せている。そして「経済学は経済原理の犯罪性を完結して来たが、大企業は経済によらず犯罪に依拠して立つ」と副題をつけている。

大門君が今までにすでに数冊の著書によって、その専門の立場から、現代資本主義制度の悪をついて来たことは周知のごとくである。しかもそれらは分りやすい言葉で、大門君の独特な立場から事実によって平易に説得している。

これらを読んだ者は誰でもよく分るはずだ。だがその反応はどうだろうか。読者の中には「分る。分るがこの巨大な権力機構に対して反抗して見た所で、自分が路頭に迷うようなことになりはしないか」と考える者も多いだろう。大衆はなかなか立上らないものだ。だが立上らないのではない。立上るのだ。あの安保のときのように。大衆が立上る時、それを誰が知ることができよう。70年安保の企画が失敗だったように、計画や煽動がいつでも有効とは言えない。しかし必ず立上る時は来るのだ。ということは、権力者や資本家の欺瞞には限界があるとい

うことである。民衆は欺瞞されてばかりいるものではないということだ。大門君のこうした著書が読まれることの意味も知らねばならない。

終戦後のドン底から日本経済は立直った。商業主義的、守銭奴的立直りだった。それは今度の石油危機に際して「千載一遇の好機」と社員に訓示を出したジェネラル石油の社長だか専務の言葉に代表されるような商魂による立直りだ。さすがに、あまり露骨すぎて、世間体が悪くなって、その偉い人は辞職したそうだが、そうした世間体が考えられたとしても、露骨過ぎてはいけないというだけのことで、弱みや隙につけてこんで儲けようとする商業主義の体質に、体裁をつけたに過ぎない。こうした商人共が政治権力と結託して巧妙に搾取のスケールを拡大しているのである。

年中行事のストにしても、革命的とか、左翼的とか掛声だけは体裁をつくって、若い者を煙に巻いておだて上げて、支配階級とのトップ取引で賃金のパーセンテージをあげようとするだけではないか。そのパーセンテージが少なかつたら今度の総評のように敗北と呼ばれる。日本人が交渉と呼んでいる言葉は英語のバーゲン、フランス語のネゴシオンでもともと売上の取引のことだ。団交というのはコレクティブ・バードで集団取引という

意味なのだ。労働が商品とされている以上・ストも商品値上げの交渉でしかないので、革命的というのがおかしなのだ。

しかし、労働力という「商品」でないものを、商品として原価計算の項目に計上する現在の資本主義社会では、どうしてもこの謬った基礎の上での取引となる所に労働組合運動の限界がある。限界を知った上でもやらねばならないのが労働運動なのだ。

資本家階級としては、賃金の上った分を原価に組入れて製品を売ればいいのだ。原価に加算される宣伝費、販売費も当然上る。だがあまり上げ過ぎては物価上昇に苦しまねばならぬ大衆の購買力に影響する。農村にもハネ返る。こうした限界を超えて、しかも完全雇傭を目指した所にケインズによるインフレの逆用もある訳だ。これはしかし資本主義の枠内での改善を目指すものだが、革命ということは、こうした労働を商品化し、大衆を搾取する資本主義と、搾取と抑圧の機構を制度化してこれを守護する国家権力を廃止することである。労働を商品としない経済と社会の樹立である。そしてこれに至る道程において労働組合運動や農民運動が、一方においては取引（闘争や交渉）によって生活を維持しながら、他方においては資本主義社会を革命した時に混乱なく来るべき

青年群像 6月号

反資本反ボルのスローガンはアナキズム陣営のみならず一部の民族派と称する団体も掲げている。「企業爆破事件」について特集を組んだこの雑誌も発行は日本青年講座本部であり執筆者の一人は「我々は日本主義を基本的な立場として団体に殉ずることを使命としているはずだ」と述べ、もう一人は自己を「亜細亜維新武闘派」と名のっている。五つの文章のうち四つは民族派の活動家によると後記されている。彼らは「死の盟約」や「結末の美学」等の語句をひんぱんに使って共通して自決した（あるいはする覚悟であった）事実を賛美している。

とは別に土着アナキストを名のる黒輝竜一（なんとノ）氏は大杉や幸徳を引用し右翼を△天皇コンプレックス△の「旧時代の遺物」としながらも、「いくら建物や吹っ飛ばしてはみるもしかたがないということ。又人間そのものを、権力そのものを吹っ飛ばし、抹殺しなくてはならないことを。」などと他の民族派を似たりよったりのセンセーションなそぶりで語る。高度なメカニズムによる管理社会を、死ぬる覚悟の突撃で破壊できるわけはないのだが、心の片すみにある浪漫主義への憧れは、こんな雑誌に手をのばさせる。（K）

社会での建設的役割をになうための研究も行われねばならない筈である。単なる破壊的行動は決して革命的ではない。来るべき社会は決してエリートだけのものではないし、であってはならない。泥棒も売春婦も皆が入って行く社会である。

大門君は「成長過程という一つの時期で露出したことは、資本は生産物を生産する手段ではなく、利潤を生産する手段であったということだ」と言い。そして「幻想を買わせるために巨大な資力を投入してさまざまな手口が張りめぐらされた」と言って、この手口が政府と結びついた暴力的手口に触れてゆく。この手口が政府と結びついた暴力と犯罪になる。待遇改善を待ち取った消費者を「あをり」消費させるために、車の危険性も、薬の無効有害性も「かくす」。かくされた欺瞞を暴露すれば合法的に弾圧される。

「売買自由体制は大企業にとっては、盗みのライセンズ」であり、「秩序は悪」と大衆が感覚しはじめた今日では、大衆のモラルの激動が始まっていることも不思議ではない」と結んでいる。（三浦精一）

坂本漢さんの死

6月29日△自由ノート△の主催者、詩人の漢さんが死んだ。肝硬変だった。浅草っ子らしく辻潤が好きで一言を持ち、放也、山頭火を書いていた。リベルテールの愛読者で記事や体裁が整うと必ず電話を下さった。64才で酒のせいとはいえ、あの飄逸な風姿が失われたのは惜しまれる。毒舌が面白く女性についての話はまた格別だった。たゞゆるぎ難い敵意を天皇制にもち、それが若い日、たまたま駅の構内で一枚の新聞にのった天皇の写真を踏んだことから他人の非難を受け、そこを原点としているのがほくにとっても判る気がした。そういう時代を生きたのが漢さんである。遺骨はご家族の配慮で大石寺に納まったという。漢さん呵呵大笑のことか！

リベルテール・サロン

リベルテールの会は毎週火曜日、夕方6時より8時まで水道橋歯科大前、三崎町の喫茶店コージでサロンをひらいています。顔をあわせ、会話を楽しむだけのサロンですがどうか訪問を楽しんで下さい。

募 集

リベルテール誌は常に原稿を皆さんに求めています。皆の力でリベルテール誌をバイタイイーに豊んだものに。

いゆるサラリーマンぐらしにもなれて、規則的な日々を送っています。でもうかうかしている、あつというまに月日がたつてしまします。リベルテールをこれからどうするかというとても大きな問題ですが、現在は自分のやるべき事、最も関心のある事柄をまず明確にしなければと思っています。そのひとつが「知識人と権威主義」の問題ですが、最近でた大沢正道氏の「労働と遊戯の弁証法」の批判をどうして、自分の考えをまとめみるつもりです。

(江藤敏和)

☆〇才の抵抗とか何とか、最近の私には変貌要求乃至変身願望がきざしています。生理的精神的要請かも知れません。平凡人の悲しき未来に跳躍する精神や物質の蓄えもないのでただオロオロするばかりですがうまく押えこむか馴らすかして現状維持、平穩無事と行けばいいけど。頭の中でエイエイオウと気合がかかると、日常性に追われる日々でも何をしますか見当がつかません。

(Y・H)

もらったりもってきた文書

頭脳戦線一六〇☆無名通信三四☆F R I ニュース11・12☆サルートン通信一八一・狼たちは何をしたか一八二号☆関西地方準備会ニュース五号☆富士地区合同労組二月・四月・五月の分・岳麓労働一二五☆高い壁五八・五九・六〇号☆林景明氏を囲む会ニュース三一号☆森永告発四号☆加納君を守る会通信一〇号☆生活者三八号・三九号☆海燕一号☆青年群像六月号☆モバード二九二号・二九三号☆遊撃五四号・小西反軍裁判の控訴審を考える集り他☆月刊共同体一二八号・一二九号☆関西地方準備会ニュース六号☆野中の一軒家一号二号☆けんさん一二八号一二九号一三〇号☆国会の友六〇号☆あぼりあ三二一四一号☆ヒロシマ+1ニュース一号☆ふり号友の会ニュース号外一号☆台湾人元日本兵士を考える一号・ピラ・他☆東京クラルテキヤラバンの呼びかけ他☆リベロ三二二号☆長野共同新聞二〇号二三号☆島根県関係のピラ・パンフなど(プロ青同・松江救援センター・島根地区底辺委員会など)☆エス版グズラのがみ☆「東アジア反日武装戦線」に恐怖する権力の大弾圧を粉碎する集会への呼びかけ☆労働運動一三号、富士地区合同労働21年七号